

研究内容

臨床研究では、脳損傷による運動麻痺、高次脳機能障害、嚥下障害や失語症からの回復と脳の可塑性との関係を、脳機能画像評価を用いて検討している。また、治療と結びついた研究として、rTMS（反復経頭蓋磁気刺激）の臨床応用に関する研究や効果的なボツリヌス療法についての研究を行っている。さらに種々の障害に対する効果的なリハビリテーション医療についての研究として、ICF、リンパ浮腫、転倒予防、障害者の自動車運転、障害者の社会復帰、地域連携などをテーマに研究している。

研究課題

- ① 失語症の回復とfMRIによる可塑性の研究
- ② SPECTによる脳機能評価
- ③ 運動障害・失語症・嚥下障害・高次脳機能障害に対するrTMSの治療効果
- ④ 痙性麻痺に対するボツリヌス療法
- ⑤ 高次脳機能障害と包括的リハビリテーション
- ⑥ 嚥下障害のリハビリテーション治療
- ⑦ リンパ浮腫のリハビリテーション治療
- ⑧ ICFに対する研究
- ⑨ 転倒予防の研究
- ⑩ 障害者の自動車運転についての研究
- ⑪ 障害者の社会復帰
- ⑫ 有用な地域連携に基づくリハビリテーションシステムの研究教育
- ⑬ パーキンソン病のリハビリテーション治療

教育目標

- ① リハビリテーション医学の基礎となる運動学や神経科学に関心をもつ。
- ② 研究の目的、仮説、方法などの立案ができる能力を養う。
- ③ 研究結果の解析に必要な基礎知識、医学的統計学的手法を修得する。
- ④ 臨床に還元可能な独創的な研究を考案し遂行できる能力を養う。
- ⑤ 国内外の学会において研究発表ができ、和文・英文の論文が執筆できる能力を養う。

到達目標

- ① リハビリテーション医学の基礎となる運動学や神経科学に関心をもつ。
- ② 研究の目的、仮説、方法などの立案ができる能力を養う。
- ③ 研究結果の解析に必要な基礎知識、医学的統計学的手法を修得する。
- ④ 臨床に還元可能な独創的な研究を考案し遂行できる能力を養う。
- ⑤ 国内外の学会において研究発表ができ、和文・英文の論文が執筆できる能力を養う。

STAFF

教授 安博 雅博
渡邊 修
小林 一成

准教授 佐々木信幸

問合せ先

リハビリテーション科
医局
03-3433-1111（内線3651）
rihabilika@jikei.ac.jp